

# 女性医師交流会 @ 浜の町病院

- 1 日時：令和2年1月29日（水） 18時～20時
- 2 場所：浜の町病院（福岡市中央区） 3F 職員食堂
- 3 コーディネーター：浜の町病院 小児科 武本 環美先生
- 4 プログラム

## (1) 講話①【仕事も趣味も面白い】

なんり小児科クリニック 院長 南里 月美 先生

### <講話のポイント>

○小児科医を続けるために・・・

- ・産後6週間で復職し病院勤務医を継続。
- ・復職後は実母、夫、夫の両親の協力や、お手伝いさんを雇用し2児を育てる。

○夫のアメリカ留学と共に2児+姪の3児を連れてアメリカ・セントルイスへ

- ・英会話の勉強の傍ら、6歳から弾いてきたバイオリンを再開し、室内合奏団に入団。
- ・ワシントン大学小児病院循環器研究室で臨床講義・研究会・検査・診療に参加。

○卒後19年目43歳で小児科クリニック開業

- ・開業3年目～小児科女医パートナーの協力で休診日をなくして診療
- ・開業して21年目に「福岡市医師会オーケストラ」を創設、団員の少ないピオラ担当！

○さまざまな挫折を乗り越えてつかんだ世渡りのコツ。実践してきたこと。

- ・「フルタイム医師・子育て家事」の両立は不可能なので、十分な謝礼と共に多くの人の助けを借りよう！
- ・助けてくれた人・スタッフ・団員への「ありがとう」は言葉と形（美味しいお菓子など）の両方で！
- ・貴重な時間を割いて出席した研究会や学会は、一番前の席で学び明日の診療に生かそう！



## 講話②【仕事と育児に関するお話】

糸島保健福祉事務所 総務企画課 伊勢 真美子 先生

### <講話のポイント>

○循環器内科医時代

結婚、出産、育児しながら、専門医・博士号を取得。

～心に残っている上司からのアドバイス～

「あきらめるのではなく、出産・育児の期間を自分のスキルアップに使うべし！」

#### 行政での仕事

福岡県糸島保健福祉事務所での仕事

<企画指導係>

- ・救急医療、健康危機管理、地域医療構想、原子力災害対策

<感染症係>

- ・結核や特定感染症(HIV、梅毒等)の健診・相談、

感染症対策

<精神保健係>

- ・適正飲酒指導



○子育てで離職したけど、やっぱり医師として復職したい！

第3子出産後、夫の転勤に伴い退職。しばらく子育てに専任。

離職中に考えた「働くことの意味」→社会の役に立ちたい！

育児がひと段落したころ、復職に向けて情報収集開始。

臨床医として働くにはキャリアのランクが不安。希望する勤務条件の病院が見つからないかも・・・そんな時、「行政医師募集」が目に入り新たなキャリアを知る。

○福岡県職員になって・・・

病院勤務時とは違う角度から医療を見ることができる。

仕事と子育ての両立ができ、経済的にも安定する。

何より10年後、20年後の自分をイメージできる先輩方が身近にいるのは心強い！



## (2) 情報交換会

3つのグループごとに各自の悩みを共有し、女性医師が活躍するため、今後改善すべきことを話し合いました。

<主な意見>

- ・結婚後退職する女性医師が多いのは、「子育ては母親の仕事」という固定観念のせい？
- ・誰にも相談せずに退職しないでほしい！（働き続ける道はある。選択肢は一つじゃない）
- ・やっぱり、男性の育児・家事の協力が必要！！
- ・昔と比べると、ずいぶん女性医師が勤務しやすい環境にはなった。しかし、今後もよりよい環境に変えてくために、批判されても女性自身がどんどん声を上げて要望していくことは大事！
- ・24時間対応の院内保育所や学童保育がほしい！
- ・病児保育を作ってほしい。小児科医の勤務中であれば、時間外でも診療をしていただきたい。

## 5 その他

今回はママさん女性医師が多く、別室で託児を実施しました！

